

調査研究部報告書情報シート

記入年月日: 2020年5月29日

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----------|----------|---------|
| 情報No. | K-20-1 | 情報区分 | プラ循環協研究報告 | ファイリング場所 | プラ循環協書棚 |
|-------|--------|------|-----------|----------|---------|

| | | | | | |
|------------|---|------|-----|--------|-------|
| 題名 報告書名 | プラスチック製食品容器包装の環境貢献に関する調査研究報告書 ～ライフスタイル考慮型LCA (ハム包装)～ | | | | |
| 報告年月 | 2020年3月 | ページ数 | 115 | 著者・出版元 | プラ循環協 |

【キーワード】

| | | | |
|------|--|-------|----|
| 処理方式 | | 要素技術 | |
| 樹脂類別 | | 化学物質名 | |
| 形状別 | | 用途別 | |
| 法規制 | | 国別 | 日本 |

| | |
|----------------|--|
| 調査 研究 内容 | <p>■主旨 機能性包装が適用されたハムの消費スタイルに基づいて、環境負荷削減効果に係る定量的解析を行った。</p> <p>■内容 消費者アンケートを実施し、世帯類型別にハムの購入～消費の頻度や量、時期等の定量情報分析を行い、多用されているハム包装が適用されたハムの消費シナリオを、機能性包装、トレイ包装、経木包装に適用し、現在のライフスタイル維持を前提としたLCAを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 機能単位: 消費者が食するハム1製品 (10g×12枚入り) の提供 ▶ 対象製品の包装形態: 機能性包装 (小分けスキンパック)、トレイ包装 ▶ 消費期限: 機能性包装品 (3週間*)、トレイ包装品 (5日)、経木包装品 (2日) *注: 賞味期限を消費期限と見なして設定した。 |
| 調査 研究 結果 | <p>■結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 機能性包装食品の環境負荷削減効果が高いことを明らかにすることができた。 現在の機能性包装のハム消費シナリオを、トレイ包装品、経木包装品に適用した場合、それらの環境負荷 (GHG排出量、エネルギー消費量、水消費量) は、機能性包装品の負荷を基準として、トレイ包装品は1.5倍、経木包装品は3.3倍であった。 ▶ 日本全体のハム生産量を考慮して、全ての包装を機能性包装に置き換えた場合の、GHG削減貢献の可能性量は最大258万トン(2020年)と、推算した。 ▶ 2030年のGHG削減貢献の可能性量推計 (対1970年) では、単独世帯 (人口) の増加に伴い、一般世帯は97.7万トンと約6倍 (1970年比) であるのに対して、単独世帯は46.2万トンと約26倍 (1970年比) の大きく伸長する推算結果を得た。 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ ハムに適用されたプラスチック製機能性包装は、消費期限を長くし、ライフスタイルに合った小分け包装の効果と合わせ、家庭での食品ロス発生を抑制していることを明らかにすることができた。 ▶ 加工食品において、プラスチック製の機能性容器包装自体は僅かに環境負荷を増大させるが、容器包装の負荷よりも高い環境負荷を有する中身食品に対する保護効果や品質保持効果が高いこと、それと相俟って現代のライフスタイルに合った小分け包装等の機能を提供することにより廃棄ロスを削減し、環境負荷削減貢献への高い寄与を示すことがわかった。 ▶ 日本での増加が予測される一人暮らし世帯では、一人当たりの環境負荷削減貢献の可能性量が大きく、現代の食に係るライフスタイルを容器包装が下支えしているという側面も示すことができた。 ▶ 日本の単独世帯比率が増加することが予測されている中で、機能性包装は環境負荷削減にますます貢献するものと考えられる。 |